

## 第三者所見



ライオングループの活動は、事業を通じて商品の提供とともに、生活者の誰もが必要とするよき習慣づくりに貢献されてきました。事業を行う上でバリューチェーン全体を俯瞰し、商品の作り手や関係者、そして商品を使用されるすべての方にとって、CSRの取り組みは当然ながら関係します。今回のライオンCSR報告書では、オールライオンでの重要課題を特定しながら、国内外全体の活動がさらに見えるように報告されています。

まずハイライト01にもあるように、「衛生習慣啓発活動」において、各国での活動を具体的により身近に感じられるような報告がなされています。国や地域によって習慣は様々ですが、その特徴を踏まえつつ、小さい頃からの手洗い習慣の定着に向けて、気づきと楽しさから自発的に行うための工夫が数多く拝見できます。まさに、事業を通じた社会貢献活動の推進に繋がっていると言えるでしょう。

ハイライト02の「仕事と介護・仕事と育児 両立支援への取り組み」では、両立のための支援策に力を入れており、特に「介護に必要な期間取得できるショートタイムフレックス制度」の導入では、多くの企業が上限を設けている中、上限なしの新しい制度を導入しており、先駆的に果敢に挑戦なさっています。また、出産退職率が高い日本において、復職と育児の支援も手厚く100%の従業員が出産後職場復帰という実績からも、従業員に真に寄り添う姿が現れています。さらに、障がいをもつ方を積極的に雇用するための特例子会社の設立など、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティへの取り組みも評価出来ます。

それから、環境社会的課題は多々ありますが、水資源については今後も地球レベルで重要な課題となることでしょう。その中でいかに地域に根ざしつつ、製品の企画・開発から生産工程、排水・使用に至るまで多角的に考慮していくかが求められます。ハイライト03の「千葉工場排水リサイクルシステムの本格稼働」では、製造工程排水をリサイクルし、水使用量削減に貢献するシステムを取り入れることで、自然に戻す排水への配慮のみならず、循環させる画期的取り組みがなされており、今後の効果が期待出来ることでしょう。また、環境目標「Eco Vision 2020」の推進の結果、各方面で高い実績を達成していますので、出来る範囲で目標を前倒ししながら、積極的な目標を新たに掲げることで、業界全体の底

上げに寄与されるのではないのでしょうか。消費者課題とコミュニティへの参画及び発展については、例年に続いて広がりを見せており、本業を活かしたより良いコミュニケーションが深められていますので「Lidea」やWebなども合わせて読者が訪れることをお勧めします。

バリューチェーンに沿った人権や持続可能な原材料の調達については、事業が自然資本に依存している側面からもグローバルに展開する上で配慮が必要となります。その点でも、経営ビジョン「Vision2020」V-2期として、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえて、達成に向けた課題解決と新たな価値創造に向けた取り組みが成されてきました。CSR重要課題の2017年目標に対する2016年実績をはじめ、今年さらには各国とのCSR情報の共有が深まり、海外に関する情報開示が拡充されています。リスク面の把握と共に、社会面でも海外との連携が強化されており、経営の透明性の観点からも、引き続き充実されることで素晴らしい展開へと繋がるのではないのでしょうか。

地球も人も健康でなければ私たちのくらしも事業も継続出来ません。そしてCSR経営において、その時代に必要なサービスや未来に向けて今取り組むべき課題に挑戦することが求められます。ライオングループはこれらに創業から事業を通じて応え続けながら、モノとコトを組み合わせる「新結合」による新しい価値を創造し、次のステージへと飛躍されつつあります。地球の現場や人々の声に耳を傾けながら、背景に広がる様々なストーリーにも想いを馳せ、CSR経営と「人を想うところ」の環がさらに広がることを期待しています。

環境専門家  
エシカルライフアドバイザー

山口真奈美

株式会社 FEM 代表取締役  
環境ビジネス総合研究所 理事長  
一般社団法人 日本エシカル推進協議会 理事

